特定機能病院／地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 広報誌

OICIだより

Take free

Osaka International Cancer Institute

季刊 Vol. 008 2022 Autumn

☆CONTENTS

02 薬局の取り組みについて
03 メディカルゲート薬局連携サービスのご案内
04 当センターでPET-CTの運用が開始されました
05 希少がん「成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）」の新しい診断方法開発に向けた取り組みを進めています＜企業5社との共同研究＞
06 放射線治療前オリエンテーション動画のQRコードでの情報提供
06 1階ローソンで「入院セット」「スウェット」を販売しています！
07 心理的安全性AWARD2022ゴールドリング受賞報告
07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
08 ご寄付について

薬局の取り組みについて

「薬剤師って、何をしている人でしょうか？」と聞かれたら、皆さまはどのように答えますか？ 「街の薬局で、薬を渡してくれる人ですよね？」という答えの方がほとんどだと思います。

そのイメージ通り、かつては、薬剤師の仕事は「薬を処方箋通りに取り揃えて患者さんにお渡しする」が中心でした。しかし、近年、薬剤師の仕事は「物（薬）を扱う仕事」から「人に対する仕事」へ移り、調剤やミキシング（注射薬の混合作業）だけでなく、患者さんへの説明や副作用管理、多職種によるチーム医療への参加など、当センター内で活躍の場を拡げています。

そんな私たちの“知られざる一面”を紹介していきます。

入院前お薬外来（外来での服用薬確認）

当センター１階の「入院前お薬外来」のコーナーで患者さんと面談し、現在服用（使用）されている内服薬、外用薬、サプリメントなどの確認をします。対象は手術や検査入院予定のある患者さんです。この時に、血をさらさらにする薬など「手術の前に中止が必要な薬」の服用が確認できれば、主治医に速やかに情報提供を行っています。薬だけでなく、市販薬やサプリメントにも治療に影響を及ぼす成分が入っている可能性があるため、それらもいったん飲むのをやめていただくように説明しています。

薬剤師外来

外来（一部の診療科）では、診察や患者さんの副作用管理をより効率的に行うために、診察前に薬剤師が患者さんと面談をして、前回から今回の治療までの副作用の有無などについて確認しています。そこでのお話をもとに、薬剤師から医師に一定の範囲内で処方提案を行っており、これによって副作用の軽減、医師の負担や診察待ち時間の短縮（軽減）に寄与しています。

薬薬連携①（トレーシングレポート）

病院の薬局と院外の保険薬局が協力して患者さんのサポートをすることを「薬薬連携」と言います。当センターの薬局にも「がん薬薬連携窓口」を設置して保険薬局との連携を図っています。外来で治療を続ける患者さんが多くなり、自宅での服薬や体調管理については、保険薬局の薬剤師が窓口となり、治療の数日後に体調確認のための連絡をしてくださる機会が増えています。その際に聞き取った内容は「トレーシングレポート」として当センターに報告され、センター内の薬剤師を経由して主治医にも伝えられています。それが次回の診察に役立てられ、より安全な医療を提供できる体制となっています。

以上、薬剤師の仕事について、ご紹介しました。中には、意外な仕事もあったのではないでしょうか？ まだまだ患者さんと接する時間が少ない薬剤師ですが、「こんな風にしてほしい」などのご意見がありましたら、気軽にお声掛けください。

患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに薬剤師も貢献していきたいと思います。

抗がん薬のミキシング（注射薬の混合業務）

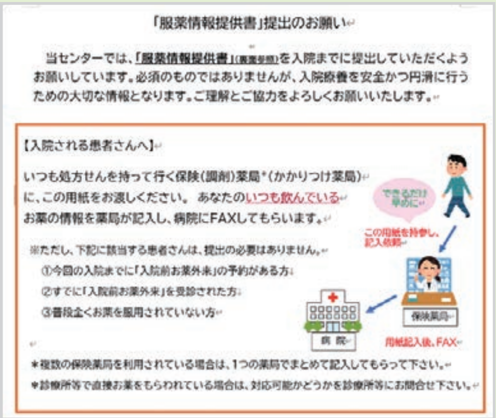
抗がん薬を調製する際は、周囲への抗がん剤による曝露（外部へわずかに漏れ出た抗がん薬によるリスク）を最小限にとどめる必要があります。そのため、その設備が整った薬局で、センター内全ての抗がん剤を調製しています。１日あたり、入院患者さんの処方は約 50 件、外来患者さんの処方は約 100 件に及びます。

外来では、医師による注射オーダが入ってから**①調剤（お薬の取り揃え）→②カルテ内容や検査値の確認→③処方鑑査（量や投与間隔、他の薬との相互作用に問題ないかなどの確認）→④ミキシング→⑤最終鑑査（処方は適正か、異物が入っていないかなどのチェック）**という工程を経て、外来化学療法室に薬が届けられます。

②や③は、特に入念な確認が必要で、医師への問い合せ（疑義照会）の結果、処方修正が必要となる場合もあります。それによって患者さんの待ち時間が発生してしまいますが、薬剤師が行うべき大事な仕事の一つであるため、確認を怠らないように気を付けています。

薬薬連携②（服薬情報提供書）

副作用報告以外の大切な情報の一つに「服薬情報提供書」があります。これは、患者さんの服薬中の薬に関する情報をかかりつけの保険薬局から病院に報告していただく用紙です。服薬情報を早期に把握したり、入院時の持参薬鑑別の時間短縮になったり大変有益なものです。報告にあたっては、入院案内に綴じられた用紙を患者さんが保険薬局に持参していただく必要があります。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。



「服薬情報提供書」提出のお願い

当センターでは、「服薬情報提供書」(裏面参照)を入院までに提出していただくようお願いしています。必須のものではありませんが、入院療養を安全かつ円滑に行うための大切な情報となります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【入院される患者さんへ】

いつも処方せんを持って行く保険(調剤)薬局*(かかりつけ薬局)に、この用紙をお渡しください。 あなたのいつも飲んでいるお薬の情報を薬局が記入し、病院にFAXしてもらいます。

※ただし、下記に該当する患者さんは、提出の必要はありません。
①今回の入院までに「入院前お薬外来」の予約がある方
②すでに「入院前お薬外来」を受診された方
③普段全くお薬を服用されていない方

＊複数の保険薬局を利用されている場合は、1つの薬局でまとめて記入してもらって下さい。
＊診療所等で直接お薬をもらわれている場合は、対応可能かどうかを診療所等にお問合せ下さい。

Medical Gate 薬局連携サービス

メディカルゲートをご利用の方は、さらに便利に！

調剤待ち ストレスゼロ

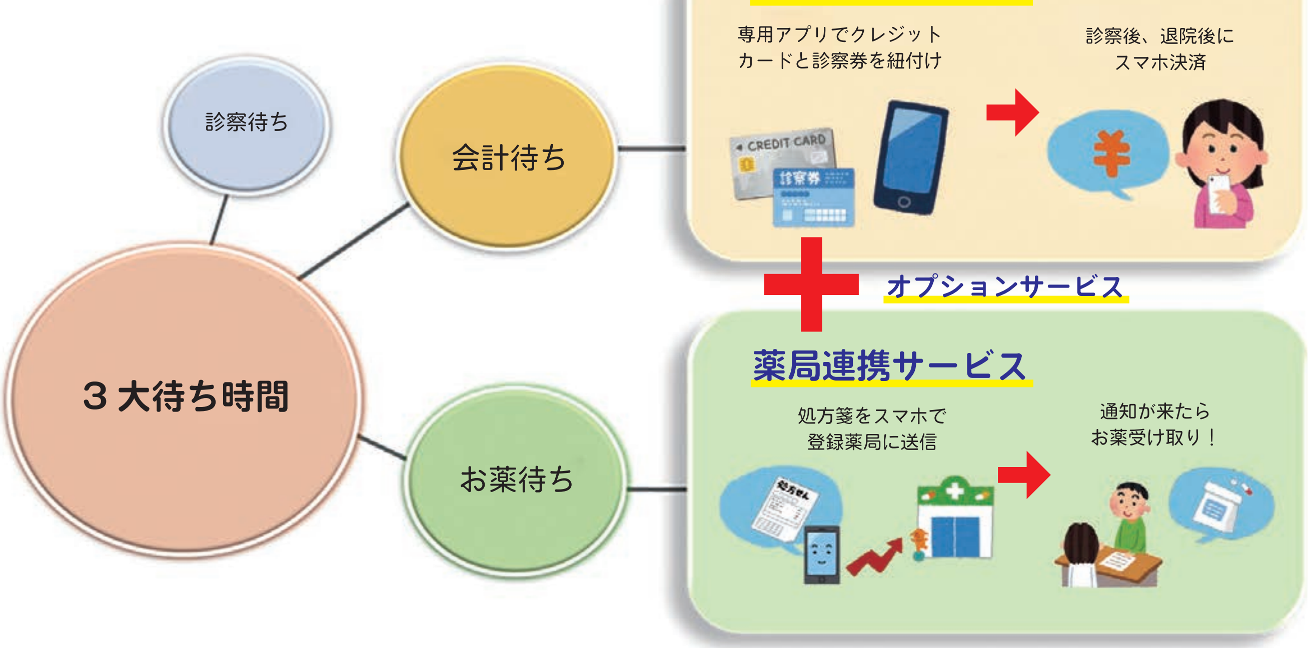
メディカルゲートは、大阪府立病院機構が運営するスマートフォンを利用した会計後払いシステムです。患者さんの待ち時間解消に向けての取り組みの一つとして導入し、３年が経過いたしました。

このたび、６月より院外処方箋を事前に保険薬局へ送ることで、お薬待ちや会計待ちのストレスを感じることなくお薬を受け取れる「薬局連携サービス」を開始いたしました。

当センターでは、これからもメディカルゲートの活用を促進し、患者サービスの向上につなげていきます。

詳細はこちら

大阪府立病院機構では、当センターでの３大待ち時間（診察待ち、会計待ち、お薬待ち）の解消に向け、患者サービス（Medical Gate）の取り組みを進めております。



※メディカルゲートの登録・オプション設定はすべて無料です

当センターで PET-CT の運用が開始されました

アイソトープ診療科 主任部長　柏木 伸夫

本年９月１日より、陽電子放出断層撮像法（Positron Emission Tomography）とコンピューター断層撮像法 (Computed Tomography) を組み合わせた PET-CT 装置の運用が開始されました。本装置の導入により当センターでも、放射性フッ素を付加したブドウ糖（フルオロデオキシグルコース) を用い、機能情報を中心とした全身画像検査が可能になりました。これにより、疾患によっては診断精度の向上が見込まれています。将来的には新規の診断用薬剤の認可も予想されていますので、国際基準においても最先端となる医療提供の一翼を担える環境整備がなされました。

実際の検査では、検査用の薬剤（フルオロデオキシグルコース) を静脈注射し、１時間の安静待機後に約 20 分の撮影を行います。必要に応じて追加撮影を行う事もあります。更衣・問診や注射後の待ち時間を含めると、検査全体の所要時間は約 3 時間です。本検査を受けていただくにあたり、以下の注意事項があります。

1 **前日の激しい運動は避けて**ください。
2 **注射前４時間（検査予定時刻）は絶食**していただきます。
ただし、糖分を含まない水分摂取は差し支えありません。
3 **当日高血糖であった場合**は検査ができなくなります。

本検査における被ばく量は、約 5 ミリシーベルトから 15 ミリシーベルトであり、健康被害をもたらす被ばく量ではありません。

※参考値：１年間の自然放射線被ばく量 2.5 ミリシーベルト

希少がん「成人T細胞白血病リンパ腫（ATL)」の新しい診断方法開発に向けた取り組みを進めています＜企業5社との共同研究＞

当センターは、希少がんである成人T細胞白血病リンパ腫※1（以下、ATL）のデータベース※2を整備して、早期診断や新たな診断指標の探索、それを活用した診断法を開発する研究を、2021年5月より厚生労働省のクリニカル・イノベーション・ネットワーク（CIN）推進支援事業（以下、CIN事業）による補助金を受け、企業と共同して始めました。その研究成果を受け、2022年5月25日※3からは一部共同研究先を変更して、ATLのデータベースの質を高める新たな基盤研究を開始しました。

ATLはHTLV-1というウイルスが原因の難治性・希少がんの一つであり、近年大阪で増加傾向となっています。ATLには「くすぶり型」、「慢性型」、「急性型」、「リンパ腫型」の4病型に分類され、「急性型」、「リンパ腫型」の5年生存率は1割台しかなく、「くすぶり型」「慢性型」でも4～5割にとどまっています。4病型の中で急速に進行し全身状態が悪化する「急性型」のATLを除いては、無症状や症状が軽微であったり、一般的な健康診断では異常を検知できないことも多かったりするために、早期の段階で診断することは難しいとされています。

このような現状を改善するため、本研究で、ATLのデータベースを活用した研究を進め、早期の段階で的確に診断する方法を新たに開発します。さらには、データベースで得られた情報から治療標的を推定することにより、ATLの治療薬の開発が期待できると考えています（図）。昨年は、データベースを一つのデジタル化したプラットフォーム上に整理し、今後の利活用の際の利便性が向上しました。

今年度は引き続き、データベースの利活用をさらに推進するために、システムの向上を目指します。その他にも昨年度から継続し、新規のバイオマーカーのデータも格納できる体制を整備します。

なお、この共同研究は、企業5社（参画企業＝セラビジョン・ジャパン株式会社、株式会社プロトセラ、株式会社アウトソーシングテクノロジー、BLUE TAG株式会社、MiRXES Japan株式会社）と共同で行われます。

HTLV-1感染について、昔は九州以南に多いと言われていましたが、近年では大阪などの大都市でも感染者が増えていることが報告されています。今でもご本人やご家族が九州以南出身の方が多いとは考えられますが、大阪出身の方でも陽性の方はいらっしゃいます。HTLV-1感染の有無については、抗HTLV-1抗体の測定を行うことで簡便に確認することができます。HTLV-1の検査などについてご質問がありましたら、担当医にご相談ください。

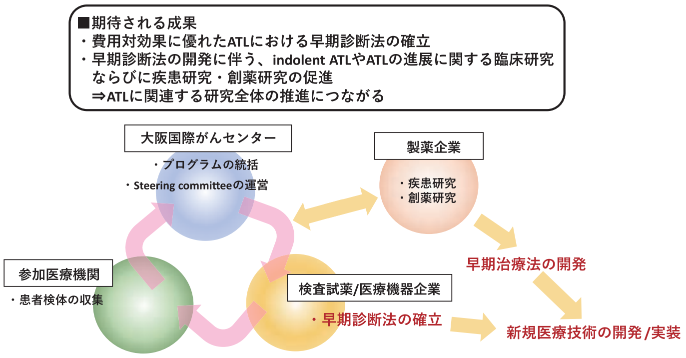
<注釈>

※1 白血球の中のT細胞にHTLV-1ウイルスが感染し、がん化したことにより発症する血液のがん

※2 疾患登録システム（患者データベース）を臨床開発に利活用することで、日本国内における医薬品・医療機器等の臨床開発を活性化させることを目指し、その環境整備を産官学で行う厚生労働省が補助するプロジェクト

※3 厚生労働省から通知のあった採択・事業開始日

【図】今後の研究の進め方



CIN 活動ユニット

①疾患レジストリ　　：株式会社アウトソーシングテクノロジー
②分子バイオマーカー：MiRXES Japan株式会社、株式会社プロトセラ
③画像バイオマーカー：BLUE TAG株式会社、
　※③は写真なし　　　セラビジョン・ジャパン株式会社

データ詳細などはこちら▶

Topics 5

放射線治療前オリエンテーション動画の QR コードでの情報提供

放射線腫瘍科　宮崎 正義
放射線系外来　山崎 佳美

放射線腫瘍科では、初診後看護師が動画を用いて、放射線治療前オリエンテーションを実施しています。内容は主に**放射線治療の流れ、治療計画 CT 撮影から治療までの注意点、治療中の症状、皮膚マークの管理について**を説明した、約 7 分の動画となっています。

患者さんの中には、「2 回視聴したい」「自宅で家族と視聴したい」「（遠方のご家族から）どのような治療をしているか知りたい」など言われる方もおられます。それらのご要望にお応えするため、QR コードで読み取り、いつでもどこでも動画が視聴できるようにしました。初診時に医師が患者さんにお渡しする説明・同意書に QR コードを印刷しているため、スマートフォンなどで読み取ると動画を視聴することができます。

説明・同意書、または以下の QR コードを読み取っていただくことで、どなたでも放射線治療の内容確認が可能です。皆さまご利用ください。

放射線治療オリエンテーション動画 QR コード

Topics 6

1 階ローソンで「入院セット」「スウェット」を販売しています！

当センターでは、オリジナルの「入院セット」および「スウェット（上下）」を 1 階ローソンにて販売しております。

「入院セット」の内容は、**①ティッシュ 1 箱②フォークスプーンセット③プラカップ④歯ブラシ⑤歯磨き粉⑥ボディーソープ⑦リンスインシャンプー**が巾着袋に入っており、価格は**税込み 962 円**です。

陳列の様子

また、急きょ着替えが必要になった時などに対応するため、「スウェット」も販売しております。上下セットでサイズは男女とも M サイズ、価格は**税込み 3,190 円**です。

皆さま、ぜひご活用ください。

紳士用

婦人用

・店頭に置いていない場合は**店員までお声掛けください**
・価格は 10 月 21 日現在です

心理的安全性 AWARD2022 ゴールドリング受賞報告

看護部　内科・外科系外来

「心理的安全性」は今、社会全体で注目されている組織変革のキーワードです。看護部では川崎看護部長のリーダーシップのもと、さまざまな改革に取り組んでいます。その一つが内科・外科系外来における、抗がん剤IVナースの資格取得による看護師の役割拡大と、それに伴う患者待ち時間短縮による患者満足度の向上です。人が新たな役割を獲得するには、不安がつきものです。目標に向かってサポートするために必要なのが、心理的安全性を担保し、最大のパフォーマンスを発揮できるようにすることです。

これらの取り組みなどを年に一度、心理的安全性づくりに取り組むチームをたたえる祭典「心理的安全性AWARD2022」にエントリーしたところ、ゴールドリングを受賞いたしました。審査は一次が書類、二次がWEB面談、三次が5分の動画作成で、89チームがエントリーされたそうです。プラチナリング2チームはダイハツ工業株式会社と富士フイルムビジネスイノベーション労働組合、ゴールドリング5チームの中に当センターが選ばれ、シルバーリング9チームはみずほ信託銀行株式会社やサッポロビール株式会社など、そうそうたる企業が連なる中、医療施設として唯一受賞できたことも大変に栄誉なことです。これからも医療・看護の発展に貢献できるように、チーム一丸となって取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

トロフィー

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター　島 沙也華

【file 008】がんの情報を集めるときに大切にしたいこと

がん相談支援センターに寄せられる相談で「最新の治療法」や「どの病院が良いか」など「がんの情報」に関するものが多くを占めています。インターネットやスマートフォンの普及により、知りたい情報が手軽に手に入る時代になりました。分からないことをサッと調べることができ、非常に便利な反面、注意をしないといけないこともあります。

インターネット上の情報の中には、現在では行われない古い治療や、治療効果や安全性が科学的に確認されていない治療を、あたかも効果があるように勧める情報なども数多く存在します。

健康保険が適用されず「自由診療として行われる治療（免疫療法など）」は、効果が証明されておらず、医療として確立されていないものもあります。そのため安全に治療が受けられない場合があるため、慎重に検討する必要があります。また、がん治療に関する個人のブログや動画についても注意が必要です。それらの情報に触れると、ご自身の治療が大丈夫なのかと不安に思うことがあるかもしれません。しかしそれらの治療があなたにとって最善とは限りません。

確かな情報源からご自分に合った情報を探すことが大切です。

気になる情報が見つかったら、一人で判断せず、かかりつけの病院の主治医や医療スタッフに尋ねてみてください。確かな情報源の一つとして、まず「がん情報サービス」を参考にしていただき、また、がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」でも、情報を探すお手伝いや、ご相談にも応じておりますのでぜひご利用ください。

1 国立がん研究センター「がん情報サービス」

2 がん診療連携拠点病院などを探す

♥がん相談ホットライン（情報提供・相談専用）　☎ 06-6945-1870

♥希少がんホットライン　☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前10時～午後4時

ご寄付について

寄付者ご芳名　　**2022年6月21日～9月30日**

受領日順／ご希望者のみ掲載

株式会社ハイメディック 代表取締役社長　伏見 有貴様、寺坂 教子様、
石井造園土木株式会社 代表取締役　石井 秀樹様、北窪 秀康様、秋田 圭子様、
近藤 悦二様、柳田 榮様、新井 三喜男様、新井海運有限会社、西口 伸也様、吉本 幸一様、
松村 建志様、黒原 正様、利本 弘昭様、辻本 容治様、那須 幸嗣様、小林 裕弘様、
吉川 優子様、岡田 博美様、大阪安宅機械株式会社 代表取締役　野村 健太郎様
他　匿名者16名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たる病院でありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。頂いた貴重なご寄付は、医療の研究や機器の購入などに役立ててまいります。

皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

https://oici.jp/center/effort/donation/

oiciだより 2022年秋号〈季刊〉

特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター

発行　大阪国際がんセンター
編集　事務局　総務・広報グループ

〒541-8567
大阪市中央区大手前3-1-69
TEL.06-6945-1181（代表）

2022年10月発行

oici　検索
https://oici.jp/

@oici.jp

◆電車でご来院の場合
Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 /
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合
東大阪線「法円坂出口」より約5分／東大阪線「森之宮出口」より約8分

※ QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。